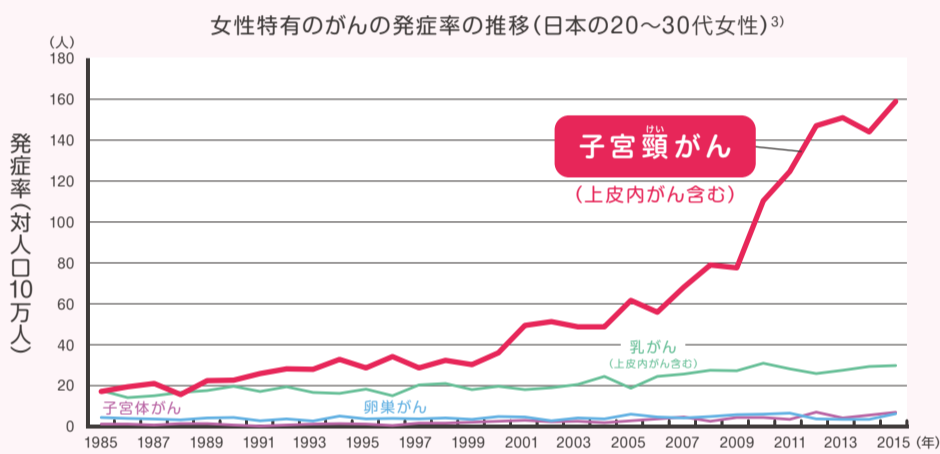


これから大人になる女の子たちと  
保護者のみなさんに、  
知っておいてほしいことがあります。

日本では、若い女性の  
子宮頸がんが増えていきます。

女性特有のがんとして乳がんに次いで発症率が高い子宮頸がん。  
毎年、約10,000人の女性が新たに子宮頸がんを患い<sup>1)</sup>、  
残念ながら、約2,900人が命を落としています<sup>2)</sup>。  
特に20~30代女性のがんの発症率では、  
子宮頸がん(上皮内がん含む)は第1位となっています。



1) 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん登録)全国がん罹患データ(2016年~2018年)  
2) 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(厚生労働省人口動態統計)全国がん死亡データ(1958年~2019年)  
3) 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん罹患モニタリング集計(MCIJ))高精度地域実測値:がん罹患年次推移データ(1985年~2015年)より作図

子宮頸がんの予防には、  
ワクチン接種と  
定期的な検診が重要です。

子宮頸がん予防

子宮頸がんの原因となる  
ヒトパピローマウイルス(HPV)の  
感染予防のために



HPVワクチン接種

子宮頸がん早期発見のために



子宮頸がん検診

20歳を過ぎたら、定期的に  
検診を受けましょう。

HPVワクチンの定期接種について

定期接種対象年齢 小学校6年生~高校1年生相当の女子

標準的な接種時期 中学1年生

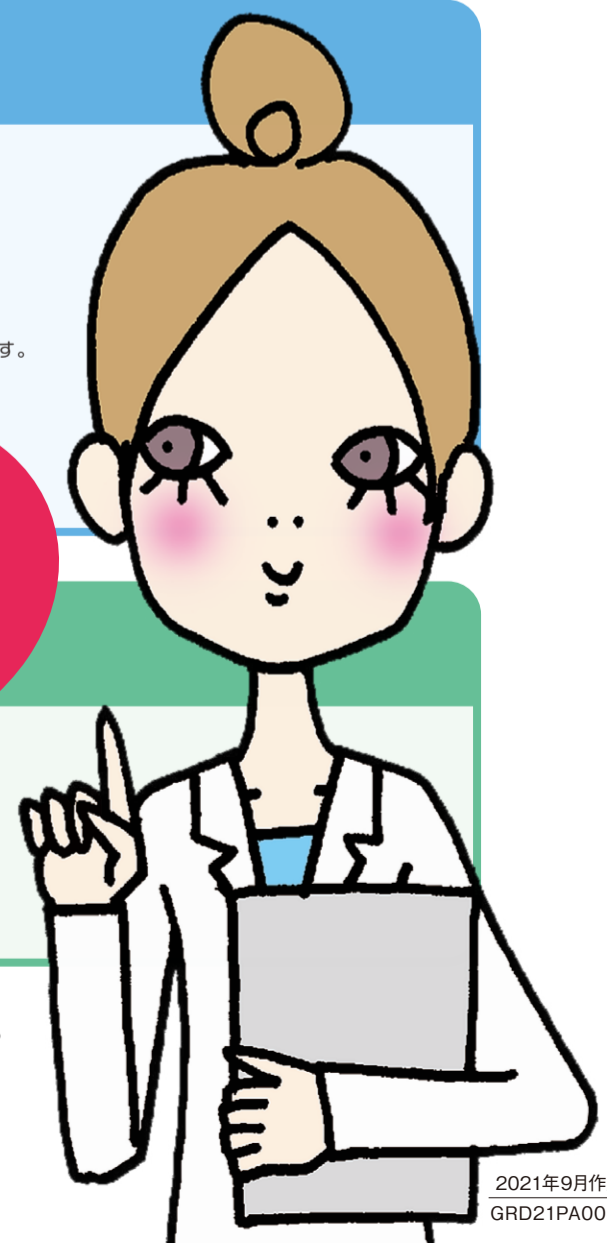
※HPVワクチンは6ヵ月間に3回接種が必要のため、3回とも公費助成を受けるには、高校1年生相当の年の9月までに1回目を接種する必要があります。

対象の方のみ、定期接種としての公費助成が受けられます  
(一部対象外のワクチンあり)。

子宮頸がん検診について

子宮頸がんは、ワクチン接種で100%予防できる  
わけではありません。早期発見と治療のため、  
20歳を過ぎたら2年に一度、検診を受けましょう。

子宮頸がん予防について、  
くわしくはこちら



ワクチン接種や子宮頸がん検診を希望される方は医師に相談し、説明をよくお聞きください。